



藤井寺市観光ボランティアの会



美 陵 ガイド クラブ 会 報

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1(藤井寺市役所 6階 藤井寺市観光協会内)

TEL:072-939-1086 FAX:072-936-9777

URL:http://www.fujiidera-kanko.info/volunteer/volunteer_top.html

第 11 号 2013年 6月

《平成25年度にむけて》

藤井寺市商工観光課長 浅野吉計

観光ボランティアの皆様には平素より藤井寺市の観光振興に多大なるご協力をいただきまして、この紙面をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げます。

今年度で9年目を迎えられるということですが、事業の内容などをお伺いしていると、藤井寺市の観光振興に、大きく寄与していただいていることを改めて感じました。

観光を訪れる人は、景色を眺め、その地の名所旧跡などを訪ねて、見聞を広めることはもとより、その地の空気、雰囲気も楽しんでおられることと思います。

総会の中で、会長の言葉の中にも「おもてなしの心」ということを何回も言われていましたが、9年目を迎えられる年月と合わせ、まさに「充実した会になられたな」とも感じました。

今後とも、この会をますます発展させていただき、藤井寺市の観光振興にご協力をお願い申し上げます。

《平成25年度にむけて》

藤井寺市観光ボランティアの会 会長 小野常芳

引き続き会長を拝命しました小野常芳で御座います。

前年度は、市外からの来客者増を図った結果、春季及び秋季ウォークの調査で、参加数536名、前期比175%(市外よりの参加者80%、初参加者79%)となりました。また、その他のガイドを加えて前期比153%の2,657名の結果となりました。

本年度は、10月27日(日)の秋季ウォークに大阪・奈良歴史街道1ルーウォークを同日開催し、大型ウォークの集大成を図ります。「ホームページ・IT部」を昇格・強化するとともに、多くなってきています団体よりのガイド依頼にたいする対応策を講じる等、当会の定例行事を多少抑制して「世界遺産登録推進」の要請に対応できる体制づくりの拡大に取り組みたいと思います。

《平成25年度の活動について》

今年度の活動は、引き続き古市古墳群の世界遺産登録推進を意識して、地元にも密着した活動を行うと共に、市外からのお客様の増加に努めることです。

昨年度はホームページの拡充の他、広く広報活動を行った成果として、市外のお客様の増加が顕著でした。

今年度もこれらを強化し、更なる来客の増加を軌道に乗せるべく、ガイド活動の充実と質的向上を図ると共に、会員間の融和を高め、元気で楽しくボランティア活動に取り組みたいと思います。

(事務局 岩崎)

《春季ウォーク》 ー春の梅園めぐりと大水川散策ー 2月23日

厳しい寒さにもかかわらず、参加者が続々と集まって来られ、386名にもなりました。読売ファミリーや近鉄ハイキング情報誌などを見て、遠くは三田市や亀岡市から、そして朝日ラジオのパーソナリティ A さんが「今日参加します」の声に、参加された方もおられました。

道明寺天満宮の三分咲きの梅園を鑑賞したあと、グループ毎に出発。道明寺、三ツ塚古墳、仲姫皇后陵古墳へ、また古室山古墳ではほとんどの方が墳丘に登って、王陵との違いを体感されたようです。その後は応神天皇陵古墳から大水川散策路へ、咲き初めの水仙を見て市立図書館で小修羅や古墳づくりのジオラマを見学。あいにく小雪がちらつく中の大井ふれあいランドでの昼食タイムとなりましたが高台から往古の河内をながめることができました。

ゴールは津堂城山古墳で、音楽が聞こえて来るなかガイドンス棟へ。「ふじいでらゴスペル」「NICE！藤井寺バンド」の歌や合唱を楽しんで頂き、また熱いコーヒーなどで疲れを癒して頂きました。

道明寺餅・みたらし団子・奈良漬・新刊本なども好評でした。参加された皆さんありがとうございました。

またご協力いただいた団体・皆様にも感謝申し上げます。(清瀧)



《道明寺天満宮梅まつり》

道明寺天満宮では、毎年恒例の梅まつりが2月10日(日)から3月10日(日)まで29日間開催されました。今年は梅の咲き始めが昨年より1週間程度早くなったものの、その後寒い日が続き咲きそろいが待たれましたが、3月に入って一気に満開となりました。

当会では、梅まつりの期間中、境内に観光案内のテントブースを設け、「天満宮の縁起」、「古市古墳群の観光地図」などを配布し、お客様の要望により境内及び周辺のミニガイドを行い、ブースを訪れた方は2千人を超えました。2月25日の梅花祭は、気温もますますで、奈良、大阪市内からなどの団体さん、そしてご家族や個人でウォークをされている方々などが大勢参拝に訪れ観梅を楽しんでおられました。



期間中は、当会のブースにもたくさんのお客様が立ち寄られ、ミニガイドの依頼或は境内の説明では、誠意ある対応を心がけ、また世界遺産登録を目指している「古市古墳群」に興味を示される方も多く、熱心に説明を聞いて頂き、皆様と会話を楽しみながら、無事に活動を終えることが出来ました。

なお期間中に募集しました奉納俳句については、当会ホームページの「ふれあいひろば」で入選作品を紹介しています。有難うございました。(高橋)

《ふじいでら さくらウォーク》 4月7日(日)

前日来の低気圧がもたらした春の嵐の中での、『さくらウォーク』のスタートとなりましたが、道明寺天満宮では雨中に凜と咲き誇る満開の鬱金(うこん)さくら、道明寺では艶やかな七分咲きの八重桜などを、楽しむ事が出来ました。然しながら、さくらの名所と言われる処では今年の気の早い桜前線と春の嵐で、散り残る花はわずかでしたが、足下を気にしながらも桜の絨毯を楽しむことができました。又、コース途上の潮音寺では年に一度の寺宝の御開帳がなされており、「仏涅槃図、三十六歌仙図」(独長禅師筆)を拝観することが出来ました。壁面一杯に掛けられた涅槃図の大きさや、鮮やかな色彩は想像を遥かに超えており、西方浄土を向いておられるお釈迦様のお姿など、あまりの見事さに目を瞠り深い感銘をうけました。

早朝よりの強風と雨による手荒い歓迎を受けた一日でしたが、ウォークの終わりには、お疲れ様でしたとばかりに青空も覗き、有意義な一日を過ごす事が出来ました。

ご参加いただいた皆様およびスタッフの皆様、有難うございました。

この催しは地域の観光ボランティア団体(NPO 法人フィールドミュージアムトーク史遊会、柏原郷土史を探る会、当会)が毎年開く春のウォークです。今年は当会が担当しました。(森岡日出子)



《葛井寺 藤まつり》

今年も、4月20日から5月5日まで、葛井寺の藤まつりの期間中、南大門下にテントブースを開設しました。古墳の写真や古墳群マップのパネルを掲示しました。また古墳の今と昔の姿が一目で分かるミニサイズの模型を置き、参詣される方々を、お迎えしました。境内などのミニガイドも含め2千名近いお客さんが来られました。

お遍路のグループの方々、藤の花を楽しみに近隣の市からの方々のほか、葛井寺が目の病気に御利益があるとのことでこられた方もいらっしゃいました。古市古墳群マップに興味を示される方が多く、説明を聞き終えるとその足で出かけられた方々もおられました。子供達のなかには、模型の古墳を熱心に見つめていた子もあり、嬉しく思いました。

この藤まつりのブースに参加することで、様々な方々との出会いがあり葛井寺や、古墳の歴史をお伝えできる機会を頂きました。

訪れていただいた皆様、葛井寺の皆様、ほかたくさんの方々に御礼申し上げます。(庄司)



《小学校世界遺産学習》

藤井寺市教育委員会が昨年度から、市内の7小学校6年生を対象に、世界遺産学習を実施しており、当会は古市古墳群を見学するフィールドワークに協力しました。

5月の10日、道明寺小学校(138名)のフィールドワークの日はあさから空模様が心配でしたが、子供達は何とか傘のお世話にならず各班に分かれ元気に出発しました。「応神天皇陵古墳」では墳丘の体積が日本一位であり、大型ダンプカー17万台分の土の量であると説明しますと「えーすごい！」とびっくりした表情の子供達でした。地域の事、歴史の事を理解しようとする、熱意・姿勢が十分感じられ、私達も説明に熱が入りました。

たくさん古墳のある素晴らしい土地に育ったことを体感してもらいました。今後も世界遺産学習に協力していきたいと思えます。(山崎睦子)



《知事表彰を受ける》

11月21日、大阪府社会福祉協議会主催の「大阪府社会福祉大会」に於いて、当会は個人22名・団体24とともに「大阪府知事表彰」を受けました。

「長年にわたりボランティア活動を通じて社会福祉の増進に貢献した功績」とのこと、平成17年の設立以来、「おもてなしの心」を旨としたガイド活動等が評価されたものと思っています。

ご支援いただいております藤井寺市観光協会ほか関係機関および団体にお礼申し上げます。今後もガイドの他、地域社会に寄与できるよう活動していきたいと思えます。(事務局)



《狭山池博物館から黒姫山古墳まで》

3月27日(水)

今年度第5回の現地研修は、市のバスを貸り切り「狭山池博物館」「みはら歴史博物館」「黒姫山古墳」の3か所を見学しました。「狭山池博物館」では現存する日本最古の溜池の歴史を学びました。民衆からの信望と人の世に尽くす奉仕の精神が、大きな礎となり、池を完成させた行基の活躍をボランティアの方から解りやすく説明を受けました。同博物館の建設の際、出土した遺物は「水と大地と人」をテーマに展示されています。

「みはら歴史博物館」では河内鋳物についてジオラマや映像によって説明を聞き、技術の高さに感心させられました。「黒姫山古墳」より出土した短甲と冑を見て保存技術に感嘆。今回の勉強会で水の大事さ、鋳造の大事さなど種々の貴重なことが勉強でき、有意義な時間を過ごす事が出来ました。(武藤)

津堂城山古墳の石槨天井石(その三)

現在ガイドンス等の前には、保存処理を終えた八幡神社の記念碑、この記念碑の基礎石に加工されていた約1/2片、碑誌板の支石となっていた小6片、そして津堂の民家の庭石だった1枚を展示しています。

これらの石材は、兵庫県加古川流域に産する^{たつやまいし}竜山石と呼ぶ^{ぎょうかいがん}凝灰岩です。

軟らかくて加工しやすい竜山石は、建築用材として今も切り出しが続いています。埋められてしまった石棺もおそらくこの石材を使っていたのでしょう。

この竜山石については、『播磨国風土記』に興味深い説話が残されています。

「神功皇后は、仲哀天皇を葬る石棺材を、石^{いし}作^{つくり}連^{つら}大^{おほ}来^くを連れて讃岐に探しに行きました。意にかなった石材がなく、対岸の播磨に渡ると、すぐに大来がよい石材を見つけた」ということです。この説話は、石棺材が前期の讃岐の鷲ノ山石から中期になると播磨の竜山石に移ったことを象徴した物語として注意されます。

かといって、城山古墳の被葬者を仲哀天皇と断定するのはちょっとせつちかなと思っています。(完)

(文責 藤井寺市教育委員会 天野末喜)



天井石の展示風景

古墳のある風景 2

川上 恵

古室山幻想

藤井寺市でのお奨めはと聞かれると、葛井寺も道明寺も素敵だけれどと言いつつ、「古室山古墳」に案内する。彼らは納得いかなげな顔をするが、現場につくや「いいね！」と、被葬者不明の、謎の多いこの古墳に魅せられる。

あれは若葉の美しい頃だった。親指ほどの柿の実が翡翠かエメラルドのようだった。辺りに人影はなく、私は桜の切り株に腰かけた。木漏れ日がチロチロと揺れていた。不思議な安らぎと、懐かしい優しさが私を抱きしめる。目を閉じると風の音が聞こえる。やがて微かに地中深くからざわめきの気配、鈴のような笑い声も。幻聴だろうか、柿の葉擦れだろうか。

ふいに、この下で眠っている人と、気の遠くなるほどの昔に出会ったことがある気がした。不思議な既視感。あまりの心地よさに一瞬、眠っていたのだろうか。鳥がさえずっている。いらい古室山古墳に眠っているのは、美しい媛だと勝手に決めつけている。

梅や桜が基底部分を裾模様のように飾り、秋には墳丘が丸ごと赤く染まる、その可憐さはまさに媛君の寝室。こんな事を言うと、偉い先生方に叱られるだろうか。



墳丘の柿の木立

《川上氏のプロフィール》 藤井寺市中のエッセイスト・各地で随筆講師をつとめる。各種活動に活躍。著作「いのまなり」他多数。